

兵庫県立福崎／播磨福崎高等学校 図書だより



2026年 9月号

今年の夏休みは、多くの生徒が図書室を利用していました！

補習や面談の間に夏休みの宿題をしたり…。

友だちと励まし合いながら勉強したり…。

1人で集中して受験勉強したり…。

ルールを守り、マナー良く使っていたので、応援したくなりました。

というわけで、これからの図書室の予定表です。



夏休み前に新着図書で紹介した

『中学生のためのテストの段取り講座』は大人気！

読みたい人は、図書室で予約してください！

【図書委員からのオススメ本】

今回は〈小説〉と〈絵本系〉の本を紹介します。

書名の前に◎がついているものは、図書室にもあります(貸出中の場合もあります)。

【9・10月の開室予定】

昼休み(毎日)12:50～13:10、放課後(月・水・金)15:40～16:50

月曜日	火曜日(昼のみ)	水曜日	木曜日(昼のみ)	金曜日
	9/1 ○	9/2 ○	9/3 ○	9/4 ○
9/7 ○	9/8 ○	9/9 ○	9/10 ○	9/11 ○
9/14 ○	9/15 ○	9/16 ○	9/17 ○	9/18 ○
9/21	9/22	9/23	9/24 ○	9/25 ○
9/28 ○	9/29 ○	9/30 ○	10/1	10/2
10/5 ○	10/6 ○	10/7 ○	10/8 ○	10/9
10/12	10/13 ○	10/14 ○	10/15 ○	10/23 ○
10/26 ○	10/27 ○	10/28 ○	10/29 ○	10/30 ○(放課後のみ)

都合により、休室することがあります。

火・木の放課後にどうしても使いたい場合は、相談してください！

〈小説〉

◎『同志少女よ 敵を撃て』 逢坂冬馬

1942年の独ソ戦。家族をドイツ軍に殺されたセラフィマが復讐を誓って、女性狙撃兵訓練学校へ行く物語。

【オススメポイント】スナイパー同士の心理戦が面白い。敵を撃つのは本当に正義なのか、などの深い考え方ができるところが面白い。過酷な戦場を生きる仲間たちの絆にとっても感動する。(1年生)

◎『ラーゲリより愛を込めて』 辺見じゅん

「生きる希望を捨ててはいけません。帰国の日は必ずやってきます」シベリアで捕虜として死と隣り合わせの日々を過ごしながらも、家族を思い、仲間を励まし、懸命に前を向く男がいた…(略)

【オススメポイント】絶望して心を閉ざした捕虜たちが、主人公の明るく誠実な振る舞いによって、次第に人間らしさを取り戻していく過程は大きな見どころです。収容所の中で俳句を詠んだり、手作りの道具で野球を楽しんだりするシーンは、当たり前の日常がどれほど大切か教えてくれます。(3年生)

夏休み中に届きました！

『リボルバー』 原田マハ

パリ大学で美術歴史の博士号を取得した高遠冴は小さなオークション会社に勤務している。オークションで扱うものはどこかのクローゼットに眠っていた誰かにとってのお宝ばかり。高額な絵画取引に携わりたいと願っていた冴の元にある日、錆ついた一丁のリボルバーが持ち込まれた。(略)

【おススメポイント】絵画が好きならぜひ読んでもらいたい作品。ゴッホがピストル自殺をしたのは有名な話だが、そこに着目して新たな推理を導き出す原田マハにゴッホに対する敬意が感じられた。フィクションではあるものの、ノンフィクションと言われても全く違和感がないほどおもしろく、ページをめくる手が止まらなかった。(2年生)

『君の名は』 新海誠

【おススメポイント】この作品の良いところは、世界観です。登場人物も少なく読みやすい作品です。そしてクライマックスにとってもワクワクします。(2年生)

『ハリー・ポッターと賢者の石』 J・K・ローリング

自分が魔法使いだと知らずに孤独に育ったハリー。11歳の誕生日に届いた手紙をきっかけに魔法学校へ入学。初めての友人や魔法に囲まれ、輝く日々を送る中、ハリーはある陰謀に気づく。(省略)

【おススメポイント】読んでいる間、自分もhogwartsの生徒になれる、そんな魔法体験ができる本

圧倒的な没入感:「動く階段」「空飛ぶほうき」等、日常のすべてが魔法に変わるワクワク感!

最高の3人組:孤独だったハリーが凸凹な仲間と絆を深めていく友情ドラマに胸熱! 驚きのミステリー:「真犯人は誰か?」という謎解き要素が強く、最後の逆転に大人も子供も驚かされる! (1年生)

→図書室に英語版もありますよ。

◎『走れメロス』 太宰治

メロスが親友を助けるために、走り続ける。

【おススメポイント】国語の教科書に載っていて、有名でおもしろくて親しみやすいです。(3年生)

→国語の授業だけが読書タイムなのも少しさみしいのですが…。

教室の学級文庫に追加で置いてもらった「0冊目の本」は手に取ってみましたか?

◎『西の魔女が死んだ』 梨木果歩

中学生になってまもなく、どうしても学校に足が進まなくなった女の子のまいは、約1か月の間を西の魔女のもとで過ごすことになる。おばあちゃんである魔女から手ほどきを受けるのだが、修行の要は何でも自分で決めることだった。

【おススメポイント】不登校になったまいが、魔女のおばあちゃんと生活し、心身のエネルギーを取り戻す物語です。そこでは主人公の複雑で細かい心情が描かれており、共感しやすくなっています。そこにおばあちゃんの、干渉しすぎず温かく見守る姿勢が、主人公を癒してくれるので、心が温かくなります。そして舞台が田舎なので自然があふれ、より癒しをもたらしてくれます。そしてこの本は映画にもなっているので、そちらもおススメです。(1年生)

〈絵本系〉

◎『おかあさんになったつもり』 森山京(福崎高校OG)

きつねのこどもが母さんのつもりになっている話。

【おススメポイント】すべてひらがなで子どもでも読みやすい。話の内容がおもしろく、読みたくなる本。(1年生)

◎『わにくんぞうくん』 森山京(福崎高校OG)

わにくんとぞうくんが好きなものをたくさん言い合う本です。

【おススメポイント】好きなものがあることはいいことだということがあらためてわかります。(2年生)

◎『音楽まんが シューベルト』 田 哲平

シューベルトの作曲家人生が描かれている。

【おススメポイント】シューベルトの代表作である「魔王」の作曲までの流れや、シューベルトの仲間たちについても書かれていて、おもしろいです。シューベルトだけでなく、他の人の話もあり、マンガになっていて読みやすいのも Good Point! (2年生)

→図書室には『はたらく細胞』・『あさきゆめみし』などマンガもあります。

いわゆる「学習マンガ」も何種類が入りました!

7月に亡くなった東野圭吾さんの本もあります。
「ガリレオシリーズ」の最新刊(=遺作)も購入予定です。